

目的 高脂血症の予知、予防を目的として、健常者に経口的に各種脂肪を負荷し、血中脂質の変動や個人差を検討してきた。既に第39回本大会でバター負荷につき報告した。今回はマーガリン（リノール酸含量約33%）を用いた時の血中脂質の変動を検討した。

方法 18-22歳の健常男子学生を被験者とし、1日当たりマーガリン60gを7日間、常食に加えて摂食負荷した。負荷前後早朝空腹時に採血して、血清脂質の変動を調べた。また実験前及び実験期間中の食物調査、生活時間調査もあわせ行った。

結果 実験前の1日当たりの平均栄養素摂取量は、エネルギー 2191kcal, たん白質 74.7g, 脂肪 77.9g, 脂肪エネルギー比 31.6%、Ca 350mg, Fe 8.5mg, V.A 1525IU, V.B₁ 1.43mg, V.B₂ 1.07mg, V.C 55mgで、微量栄養素類は所要量に不足し、現代青年の栄養摂取状況の特徴を良く示していた。実験期間中はエネルギー、脂肪、V.A摂取量は著しく増加し、脂肪エネルギー比は41.1%と上昇した。しかしマーガリン負荷後の体重増加は認められなかった。7日間のマーガリン負荷により、血中脂質にほとんど影響は認められなかった。リポ蛋白分画にも影響はなかったが、アポA IIの増加、アポEの低下がみられた。バター負荷による総コレステロールの増加は、LDLコレステロールの増加によるものであったが、本実験のマーガリン負荷ではLDLコレステロールは低下の傾向であった。また、被験者の血中脂質レベルを肥満の有無で検討したところ、LDLコレステロールの低下傾向は、特に肥満者の方で顕著なことが認められた。